

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 20 年 7 月 4 日									
法人名	(有)清寿会									
代表者(理事長)名	藤林 清									
介護保険事業所番号	2	7	7	1	1	0	1	1	8	1
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホーム正寿苑									
事業所所在地	岸和田市稲葉町2552-2									
記入担当者職・氏名	(職)管理者					(氏名) 藤林キヨ子				
連絡先電話番号	072-489-2350									

自己評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	各棟の理念を職員独自で作っていききたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の理解を深める為近くの町会館をお借りして認知症ケア専門士の先生により講習会を開催して地域の方に情報など提供することにより今後の高齢者介護に役立つよう取り組んでいる。	○	今後も継続していろんな講習会を開催していきたい。又地域の方が気軽に相談できるような環境をつくってきたい。空室の電話の問い合わせ時には今困っている事を聞き、個々に合わせ知っている情報は提供している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を全体ミーティングで外部評価の意義の説明や話し合いをしている。各棟に自己評価を配布して職員の意見や改善を集約している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方や民生委員又は家族や利用者様に参加して頂いている。普段の生活を一緒に体験して頂いたり、消防訓練などにも参加して頂きご意見や要望を聞き今後のサービスに活かせるよう心掛けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事業者連絡会の講習やグループホーム情報交換会に参加している。又生活福祉課や社会福祉協議会などに協力をして頂いたり、連携している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な方の入苑を通じその機会に制度について学ぶ事ができ、関係者との話し合いで支援の方法について職員が提案し実践する事ができた。その後も必要性のある方には説明や支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段からどういう状況が虐待や拘束につながるのか話合う機会をもつようにしている。行動障害があるかたについては、原因の追及に努め解消や気持ちに添うよう努力している。管理者も普段から利用者に関わり生活状況、実態を把握し助言している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず重要事項説明書、契約書を双方で確認し質問など受ける機会を持っている。又通院や服薬に関しては十分な説明を行い理解して頂いたり要望に応じれるよう話し合うようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月介護相談員が来苑されて利用者とコミュニケーションをとりながら話す機会を設けている。又、相談員の方と管理は話し合う機会も設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、苑での暮らしの様子や行事を「正寿苑だより」で、又個人々の健康状態や服薬状況などは各担当者より報告書を発送している。金銭管理は明細と領収書を月末に締めて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、要望、意見書（苦情受付窓口設置）や第3者委員への連絡先を家族に郵送したりしている。又アンケートを実施し、その結果を家族や運営推進委員会で公表し検討、改善に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見が聞けるよう心掛けている。又カンファレンスなどに参加したり意見が言いやすい状況や交流の場を持つようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応が出来る様シフトにゆとりを持つようにしている。又行事などにはできるだけ多くの職員が関われる様努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	休職などによる異動はあるが無意味な異動はしていないやむを得ない場合は他職員や利用者への負担は最小限に抑えられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知専門士の先生の講義や往診して頂いてる病院の院内研修に参加させて頂いている。社協主催の研修に積極的に参加するようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会の情報交換会に参加したり他グループホームと連携して職員の交換研修として互いにノウハウの取得、介護技術のレベルアップ、自己を振り返る場としてサービスの質を向上させる目的とし互いに交流を深めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を開いたりできるだけ休みの希望をシフトに組み込んで。急な欠勤も他職員の負担にならないよう他の人員で確保している。職員からの疑問や悩みを解決できるように助言や話し合いの場をもつようにしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格を取得する為の勉強会や研修に参加できるよう希望を聞いたり、配慮している。仕事への取り組みに協力できるように専門書の購読や希望する講習には出席できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス開始前に本人の生活歴や現状をよく把握し、開始後はご本人との距離を縮めていき、よく話を聞き困っている内容については職員が共通の理解をした上で対応していくよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入苑前に家庭に訪問したり、家族の困っていることをじっくり聞けるよう来苑していただき、今後の生活を共に考え要望や意向を伺うようしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に他のサービスを利用する方が望ましいと判断した時は紹介したり、先方の担当者に連絡したりする等し、色々な選択肢がある事を説明して安心していただける様配慮している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入苑前に見学に来て頂いて一緒にお茶を飲んだり、泊りで体験して頂いたりしている。家族と連携し本人が馴染めるような居室の準備や自宅への外出など安心して頂けるよう配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を尊重し、談話の中からのいろいろな事を教えて頂き、又潜在能力を活かせる様な生活を維持していく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間の行事等への招待や家族会を通し家族との関係を築いている。面会時に状態の変化の報告に家族と共に喜んだりしている。	○	家族には毎月個々に本人の状態など詳しく書面で報告し、苑での生活の様子は「正寿苑だより」を送っているが、一方通行になりやすいので家族の意向を気軽に伺える機会を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入苑前の家族との関係を重視し、日常の様子や家族への思い、楽しい出来事などを伝え来苑して頂けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から行かれていた美容院にお連れしている。入苑まで親しくされていた方が来苑され、自室で一緒に時間を過ごしたり、電話で近況のお話などされている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う、合わない人や認知症の進行によりうまく関係がいかない時は個別に対応し、より良い関係が継続できるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退苑後も家族が立ち寄って頂き、入院中の様子や相談を受けたりされる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア重視の為、本人がどういう暮らしをしたいのか？家族や本人の意向や要望を把握し、生活のリズムが保たれるよう認知症の症状や体調を考慮し検討を重ねていくように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報が少なくわからない人もいる。家族からの情報などが無い場合は前事業所への提供依頼や本人からの情報を少しずつ把握していけるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックや排泄、表情、生活のリズムの崩れなどに変化がないか、変化があれば様子を見ながら原因や対応に検討を重ねていくようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症の進行に伴い、思いや望む暮らしも変わっていく為常に状態をよく見てチームケアでコミュニケーションを図りながら本人の希望を見出し、家族や医療関係者に相談し日々の暮らしが充実したものとなるよう対応を検討している。家族様と来苑日の調節を行い日程を合わせ、話し合いの場を持っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにカンファレンス会議を開き、プランの見直しを行ったり、状況の変化があるとその都度、モニタリングし医療より情報提供を頂き、又家族の意向を尊重しながらケアプランを個々に合うよう話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報が共有できるよう重要事項を共通ノートにも記録したり予定表やカレンダーに表示しカンファレンス時総合的に把握することに努めている。	○	日頃の生活の中でちょっとした気づき、発見を図式化した情報として職員全員の共通理解ができるよう焦点情報など活用していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入苑に対しての不安を軽減して頂くよう体験入苑や家族と一緒に見学の数回を重ねたり、来苑手段のない方の送迎や入苑時の家族の負担に対して協力したり本人の望む生活歴（お供え、美容院、散歩）を継続出来る様な要望に応じることができるよう検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の方の月に一度の訪問で利用者さんと交流して頂いたりボランティアの方による日本舞踊や手品を楽しませて頂いたり地域の警察による防犯警備や消防署訓練を指導して頂き安全、潤いのある生活を送ることが出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーの会議やサービス事業者会の会議に参加しグループホームの実情や意見交換を行い、地域密着サービスが高めれるよう努めている。他サービス事業などにも情報を提供して頂き、役所に相談し前向きに取り組んでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	独居の方や家族様の事情に応じて権利擁護の活用などについて地域包括支援センターに相談したり又、包括センターの方やいきいきネットワークの方が見学に来苑され連携し取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の意向をよく話し合い、情報提供し今後の本人にとって安心できる生活に必要な協力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに利用者を敬い、尊重し対応する事に心掛ける。又記録に関しては個別にファイルして管理し、個人情報は文書を持って開示の許可を受けている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で決定できる場面作りや言葉かけに努め、希望に沿った支援ができるよう努める。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活リズムや体調などを考慮してその方のペースで生活して頂けるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を聞き、美容院や訪問美容の利用をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、準備など出来ることを支援し、献立を考えて、自身で選らべる楽しさなどを味わっていただくようにしている。	○	月に一度バイキング形式の食事や外食で楽しんで頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調や医師の指示のを考慮しながら、家族が持参された好みの物など個々に合わせ、自室で食されたりできるように見守っている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄リズムを把握し、声かけ、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しんで頂けるよう沐浴剤の色の変えたり、個々の湯の好みの温度を考えて入浴して頂いている。	○	暑い日や入浴の希望のある時はシャワー浴など汗を流して頂けるようにしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠や体調を考慮して本人のペースで過ごして頂くようにしている。昼夜逆転や夜間不眠の方は医師と連携し家族と相談しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人に楽しんで頂けるよう行事ごとの用意や個々に合わせたゲーム、外食や外出で気分転換して頂いている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自身で管理できる方や希望があれば所持して頂いている。紛失の可能性については家族に説明し、了解を得ている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や体調を考慮してドライブや公園など季節を感じられるところへ出かけるようにしている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>お墓参りや自宅、旅行へ家族と外出したりされている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族、知人からの電話の取次ぎや希望があれば本人に電話を使って頂いている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも来苑して頂けるように説明している。自室でゆっくりできるよう支援している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていない。利用者の行動を見守り行動を予測し危険を回避できるよう普段より話し合っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者がどこに居て何をしているか把握し、次の行動などの心境を察知するように心掛けている。日中は玄関、裏庭の鍵などは開放している。外に出たいと要望があれば職員の見守りですぐに対応するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全ての利用者の所在を把握するように努めている。人員チェックシートを活用し、夜間は個人の状態に合して巡回をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物については本人に納得して頂き、家族の了解もと事務所で保管させて頂いている。又注意が必要とされる物の使用は職員が必ず付き添い安全を確認する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットについてミーティングを重ねて事故防止に努めている。火災については年2回防災訓練を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時には対応マニュアルを作成しており、その指示にしたがって対応している。対応できない時は管理者、ケアマネジャーに連絡し指示を仰ぐよう申し伝えている。	○	消防署で緊急時の応急処置の講習を受けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災については消防署立ち合いで訓練している。又、運営推進委員会で町内の方にも参加して頂き、万が一火災などの災害時には町内放送や協力をして頂けるようお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入苑時に環境の変化による混乱などのリスクやプライバシー保護による居室内の転倒などを十分に家族に説明し主治医より薬の処方や変薬についてのリスクは説明して頂いている。本人の望む暮らしが支援できるよう家族と話し合い了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の状態を職員全員が把握し（バイタルチェック表や排泄、食事のチェックなど記録）いつもと違う変化には早く気づき、速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は職員が把握し、作用や副作用についても医師より指導を受けており、便秘薬などについては状態に応じてコントロールするように指示を頂いている。変化があればすぐに主任やケアマネジャー医師に連絡し指示を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状況を把握して服薬調整、調理の工夫、水分摂取軽体操などを取り入れて、スムーズな排便を促す工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔洗浄、義歯洗浄については見守り毎日習慣にしている。又必要な方は本人の意思を確認し家族の了解を得たうえで週に一度歯科医の往診で口腔ケアも行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入苑前の食事の量などを確認して提供している。毎食、摂取量を記録して把握している。水分量が少ない方はチェック表一日の必要量に達するよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成し必要に応じて活用、実行している。事業所連絡会の講習にも参加し職員や家族などにも認識して頂く為、運営推進委員会でテーマとし、内科の医師に参加して頂き講習会を開催した。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の保清、調理器具の消毒と殺菌を実行している。毎日の食材は業者に委託し配達して頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りに家庭的な花を植えたり、椅子やテーブルを設置しゆったりとした外観、空間を工夫している。又裏庭に菜園を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭に花を植えたり、畑に季節の野菜を植え、収穫して台所で調理している。リビングはできるだけ開放し自然の温度を心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で休憩やテレビを観たり、リビングやソファなど、好きな場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具やテレビ布団など持って来て 頂くよう家族に説明と協力して頂いている。本人 が希望するものや必要なものは職員と買い物に出 かけたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室の換気、空気の流れを作り新鮮な空気を取 り入れている。気候に応じて季節感を感じるよ うにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	安全に歩行していただく為、バリアフリーで手す りも状況に応じて新たに設置もしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	残存機能を把握し、できる限り維持できるよ う個々の生活をあからさまにサポートするのではな く自立を促しながらさりげなく支援し自信を持っ て生活する場所作りを工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	裏庭には随時季節の花や野菜を植えて自由に散策 できるように工夫している。一日の日光の当たり も違うので玄関先にもコミュニケーションの場を 作り、状況に応じて活動などしやすいように心掛 けている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所が自然の中にある環境を活かして外の空気や行事を通して季節を感じていただき、常に利用者の立場になり個性を大事にして喜怒哀楽をだせるようにゆとりを持つように努力している。